

北麓ファイターズ(ドッジボール)、
県大会で優勝し、4年連続全国大会へ

ドッジボールチーム・北麓ファイターズは、
去る7月18日に行
われた山梨県大会
で昨年に引き続き
優勝し、8月29日
東京体育館で行わ
れる全国大会へ出
場します。北麓フ
アイターズ、昨年
の全国大会では惜
しくも準優勝に終
りましたので、
今年は何は、全国
を制覇してもらいたいものです。



小立と船津のミニバスケットチームが
県大会で2・3位になり、共に関東大会へ



5月から6月にか
けて行われた山梨県
大会(90チーム出場)
で、小立チームが準
優勝、船津チームが
3位という快挙を成
し遂げ、8月19〜21
日に行われる関東大
会、さざなみカップへ、
山梨県の代表として
出場することになり
ました。

旧河口湖町時代を通して、初めての出場です。

すが、2チームが一緒に出場できるといこと
は、素晴らしい快挙です。
両チームの健闘を祈ります。

お年寄りも頑張ってます！

長浜チームが準優勝

去る7月13日、
勝山あかつき総合
グラウンドで行われ
た、第24回南北鶴
老人クラブ連合会
ゲートボール大会
で、長浜チーム(梶
原かね子監督)が、
準優勝の好成績を
収めました。



渡辺玉枝さんに、
特別町民の顕彰を授与！



6月議会で特別町
民に推挙された、登
山家・渡辺玉枝さん
に対する特別町民の
顕彰授与式が7月7
日、町役場で行われ
ました。
授与式には、町議
会議員をはじめ町関
係者等が参列し、渡
辺さん特別町民を祝
福しました。

「大好きな町周辺の山を、地元の方々と一緒に

登りたい。また、外国の山で出会った人たちに、
富士河口湖町の美しさを紹介していくことが、
私の出来ることかな、と思っています。」
「病院通いするのではなく、山通いをしていき
たい。」(渡辺玉枝さんの謝辞から)

ご寄付いただきました。

ありがとうございます。

これまで旧河口
湖町にご寄付等を
いただき昨年お亡
けになった、故
梶原林作氏のご子
息である梶原寿
太郎さん(東京在
住)から、庁舎整
備のためにと300
万円のご寄付を
いただきました。
ありがとうございます。



三浦廣明特別顧問のご冥福を
心からお祈りします。

前足和田村の最後の村長で、新町合併後
は特別顧問として、新町の行政推進のため
にご尽力していただいております。三浦
廣明特別顧問が7月16日不慮の事故により
お亡くなりになりました。
三浦特別顧問の死を悼むとともに、心か
らご冥福をお祈りします。

富士山ハザードマップ最終報告について

既に新聞等でご周知のとおり、平成13年7月より進められていました国の「富士山火山防災協議会」において、富士山ハザードマップの最終報告が6月29日になされました。

報告書は、噴火の被害想定、火山防災対策等11章230ページにも及ぶものです。

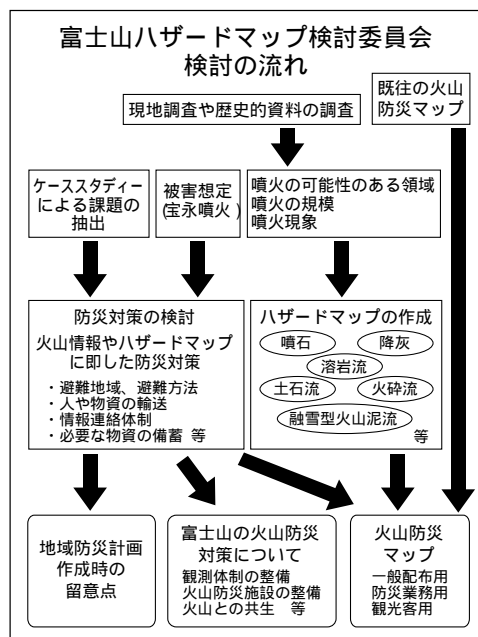
今後は住民の皆様にご理解していただくためのものとして、富士北麓8市町村で組織しています「富士山火山防災協議会」で、想定される火山現象等を理解していただくための冊子の作成配布及び住民説明会を行い、更には町独自に避難場所・避難路及び避難行動等を示した「ハザードマップ」の作成・配布を予定しております。

富士山は活火山であることを再認識し町全体で防災体制を図り、住民はもとより訪れる観光客等に対しても、災害に強い安心安全なまちづくりを進めていきたいと思っておりますので皆様のご協力をお願いします。

なお、この報告書は内閣府のホームページで公開されておりますのでご覧ください。

また、町にも報告書がありますのでご覧ください。

<http://www.bousai.go.jp/fujisan-kyougikai/index.html>



【富士山火山防災一口メモ】

「災害」という言葉は「広辞苑」によると、「異常な自然現象や人為的原因によって、人間の社会生活や人命に受ける被害」と記述されている。つまり、災害は火山活動だけで生じるのではなく、人間の生活の場や経済活動の場が存在することにより生じるのである。こう考えると火山災害を軽減する最も根幹的な対応は、我々人間が知る努力と実行する努力をすることが必要である。

知る努力として、

富士山でどのような現象が生ずるのかを知り、私たちの生活にどう関係してくるのかを知ることである。

火山噴火により直接的に発生する現象としては、火山ガス、火山灰などの降下物、火砕流、火山泥流、溶岩流など、他方地殻変動、火山性地震、空振、津波、山体崩壊や火山灰等の堆積物に起因する土石流な発生など、間接的もしくは関連して発生する現象による災害も発生している。これらの現象は、発生する量、移動速度、温度などによって異なる。

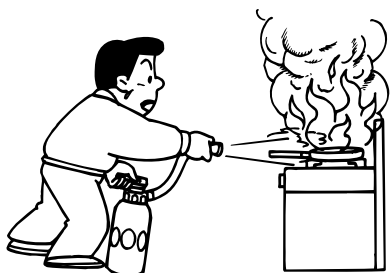
富士山の恵みに生活している人間の場の状況をよく知る。避難のしにくい老人、病人、小さな子どもたちが、どこにいるのか、そしてどのように避難すればよいのか。これには、わかりやすい情報の提供だけでなく、日頃からの人と人とのつながりが求められる。

- 7月2日に行われた「富士山火山防災講演会」から -



総合防災訓練について

8月29日(日)町内数箇所で開催される総合防災訓練を実施します。訓練の内容については、8時39分に大規模災害が発生したという想定により、住民避難訓練・炊き出し訓練・応急救護訓練・消火訓練等です。大規模災害が発生した場合、住民一人一人がどう行動すればいいの、どう協力すればいいの、家庭内また地域の中で話をしてみてください。



また、平成7年発生した阪神淡路大震災では、建物・家具等による圧死が死者の9割でした。この機会にもう一度建物の耐震診断、家具の固定など身の周りの安全確認をしてみてください。

総合防災訓練の詳細については後日各世帯に配布しますので、当日は多くの皆さんの参加をお願いします。

集団学童疎開とは……

私は昭和九年生まれ。昭和十六年四月に永田町国民学校に入学した。この年から尋常小学校はすべて国民学校に改称され、日本が戦争に負けた昭和二十年の翌年まで続いたので、私たちは小学校入学、修了者はいない。

そして、入学した昭和十六年の十二月八日の大本営発表として「わが国は本日、米、英国に宣戦布告せり」というラジオニュースが流れた。六歳のときである。

真珠湾奇襲攻撃がはじまり緒戦は鼓舞するため、アジア地域の占領地の地図は日本を象徴する赤色に塗られた勇ましかつたが、物流の差はすぐあらわれ、日本の上空は太陽の光を反射するジュラルミンの爆撃機が飛来するようになった。

昭和十九年には本土決戦、「欲しがりません、勝つまでは」のスローガンが謳われたが戦況は厳しく、都会児の学童疎開、縁故疎開がはじまったのである。あのとときから六〇年、疎開時一〇歳の少年少女は今年、七〇古希を迎える。

いま感ずるに、この国は豊かにみえるが、敬愛も、思いやりも、恥も、大切な誇りも心は熟れ朽ち失っている。忙しさは経済成長効果を生んだが、なんでもすぐに手に入るときだが、食一つとっても感謝の気持ちはないのではないだろうか。

いま、この国は食料の自衛ができていない。これを自覚しなければならぬ。過去を忘れ背を向けることは、生活が豊かになっ

たときの心の落とし穴だろう。

孫娘が「じいじ、がくどう しゅうだん そかいつてなあ〜に」と聞く。

いま、イラクやアフガニスタンの子どもたちが苦しんでいるのと同じような暮らしが、たった半世紀前の日本の姿としてあったのだ、ということ、子どもたちに伝えておかねばいけない。私たち世代の責務と思う。

「もろこし饅頭」は敗戦三ヶ月前、私たちの学童疎開先での生活状況から、いま同世代の子どもたちに、何かを感じとってもらうことはできないだろうか、と思いつつ、六十年前、一〇歳の集団生活のときの風景を拾いだしてみました。

平成十六年八月

藤野勝啓

支那事変から続いている大東亜戦争は国民生活を圧迫し、すでに東京の食料はほとんどが配給制度になっていた。米はもちろん、砂糖、油などは、まず手に入らなくなっていた。

食料の確保と空襲を避けるため、学校は児童の地方行きを奨め、私たちは本土来襲の激しさが増す

前年の昭和十九年、



集団学童疎開出発 (昭和19年8月)

四年生の晩夏、山梨県の河口湖畔へ学童疎開をはじめた。

親のどちらかに田舎がある場合は、縁故疎開と称して、それぞれの地方に引き取られていったが、私たちはその縁故者がなかったため、いまは観光客も訪れないこのラジウム鉱泉の旅館で集団生活がはじまったのである。

従って国会議事堂の隣の学び舎であった永田町国民学校は親元に残る低学年のみとなった。私たちの集団生活もそろそろ八ヶ月が経過、昭和二〇年の春、河口湖の湖面の氷も解けはじめたところで、五年に進級したばかりのことだった。

いつものように当番班長が「朝食の用意ができました」と各部屋に声を掛けはじめた。声を待っていた仲間と一目散に食堂をめがけると、そこには何か発表のある感じで男女担任のそれぞれの先生と寮母さんが並んでいた。

私たちが食卓に着くのを待って、「食事に前に話しがあります。すでにお前たちも知っているだろうが、きょう、二年生二六名がこの河口湖にやってくる。従って五年生は全員、富士吉田の駅まで迎えに行く。弟や妹がやってくるので、みんなで大きな声で迎えてやって欲しい。東京はいよいよ本土決戦であるから、お父さんやお母さん、そしてお兄さんやお姉さんに任せてくるのです。だから、朝食がすぐだら出発の用意をするように。今日の授業は中止ッ」歓声があがった。騒わめきのなかで、東京がB29の爆撃でだいばやられたらしいとか、グラマンが富士吉田の軍需工場を直撃し、挺身隊の女学生が何人が死んだらしいなど、なぜか同じ宿舎の中にいるのに、それぞれが新しい情報をひろっていた。

海軍将校を父に持つ後藤は、「いや大丈夫さ、今年になって零戦や隼の性能が改良されたからな。十分

追撃できるよ、心配ないさ」と物知り顔で鼻をびくつかせた。

この一週間、午後は毎日、海軍の兵隊さんの手伝いである。富士山麓に密生する松の根っ子を掘り起こし、一カ所に集める作業である。零戦などの燃料になる松根油を採るためだが、私は比較的軽作業にまわされていた。

それは去年の暮れ、切り傷がもとでいつまでも治らないデキモノのせいである。

(中略)

地方とはいえ、ここでは米がでなかった。ままあるのは唐もろこしだけである。

厳冬のこの地では、越冬のための保存食としての農家でも、その唐もろこしを材料とした、もろこし饅頭を作っていた。

夏の終わりに収穫した唐もろこしを軒下に吊るし、乾燥したものを石臼で曳き、それに少量の小麦粉とで練り上げて、あんパンほどの大きさに蒸したものである。日が経つとカチカチになるが、囲炉裏で温めるとやわらかくなり、甘さが口のなかに広がる。

中身は何も入っていないが、これがなんともうまい。飢えた疎開組には最大の食料であった。



河口湖上での訓練。訓練はすべて海軍式

(中略)

このもろこし饅頭を弟にもって行ってやる。まだ、遠足気分が抜けないだろうが、二日目ともなればいささか不安に違いない。

弟の疎開宿は、私のいる河口村とは対岸の、つまり河口湖の富士山寄りの船津であった。

(中略)

藤野 勝啓氏「もろこし饅頭」より抜粋

永田町国民学校集団学童疎開「学年別宿舍と人数」

卒業 在籍 回数	昭和 19年度			昭和 20年度			増減 人数	引率教職員 (19年) 下段 20年
	学年	宿泊先	人数	学年	宿泊先	人数		
43 42	この年は集団疎開せず			男 女	河口湖ホテル 河口湖ホテル	9 17	20年 追加	内田 淑子
41 回				男 女	山岸旅館 山岸旅館	21 19	20年 追加	古屋寿美子 北村 信子
40 回	男 女	登喜和屋旅館 河口湖ホテル	42 30	男 女	登喜和屋旅館 船津ホテル	28 20	14 10	野田 卓雄 上江洲盛忠 横山 尚子
39 回	男 女	山岸旅館 船津ホテル	39 32	男 女	龍宮ホテル 龍宮ホテル	23 12	16 12	上江洲盛忠 相原 信子 北村 野田 卓雄
38 回	男 女	大屋ホテル 河口湖ホテル	45 31	男 女	大屋ホテル 河口湖ホテル	30 25	15 6	矢崎 晰 腰元 和代
37 回	男 女	龍宮ホテル 龍宮ホテル	45 42	19年 3月 31日 卒業の為引き上げ				浜田 常寿 佐野 淑子
合計	計 306名 残留組 27名			計 204名 残留組 0名				古屋寿美子 (看護教)

集団学童疎開60年目の8月27日、船津小学校で、その当時の体験を話していただきます！

昭和19年の集団学童疎開から今年がちょうど60年。旧永田町国民学校の皆さんにとって、この地での生

活は忘れがたいものによつてです。皆さんは5年ほど前同期会を結成し、平成13年から毎年この地を訪れ、船津小学校と新町の役場庁舎に記念植樹をしていただいています。

そして、60周年「人間で還暦を迎える歳月」の今年も集団学童疎開の出発日である、8月27日にお出でになります。

今年、60年という節目の年でもありますので、皆さんにお願いし、船津小学校の子どもたちに、集団学童疎開での体験などを話していただくことになりました。

会場は船津小学校の体育館です。当日は、船津小学校の5・6年生全員が参加しますが、会場も広いので、是非多くの町民の皆さんに足を運んでいただきたいと思ひます。

また、この集団学童疎開につきましては、疎開先である船津・河口地区の皆さんのご協力だけでなく、小立・勝山・西浜国民学校、勝山婦人会女子青年団、大嵐村、大和田児童有志や個人の方など、周辺の方々の皆さんから、物心にわたる支援をいただいたこととす。

そういう面で、この集団学童疎開に関わっていた方、何らかの資料などをお持ちの方は、是非一報していただければと思ひます。

(連絡先 町役場企画課 72-1129)

「河口湖での集団学童疎開の体験を聞く会」
日 時 8月27日(金)
午後2時～3時30分
場 所 船津小学校体育館



旧河口湖町庁舎が船津地区 交流センターに 生まれ変わります。

旧河口湖町庁舎につきましては、今年4月より船津地区の各種関係者や役場庁舎内で協議を重ね、3階部分を撤去し、1・2階部分は内部改装し、「船津地区交流センター」ということでリニューアルすることになりました。



1階部分には、多目的ホールやロビー、和室の他、広域シルバー人材センターの事務室が入ります。2階部分にも多目的ホールの他、地区の皆さんがそれぞれに使える研修室が配置されています。また、旧建設課の事務室があった西側の部屋は消防団船津分団の詰所として利用することになりました。

工事の入札は7月5日に行われ、株式会社井出工業が落札し、1億815万円で契約いたしました。工事には際しては、周辺の方々にはご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いします。

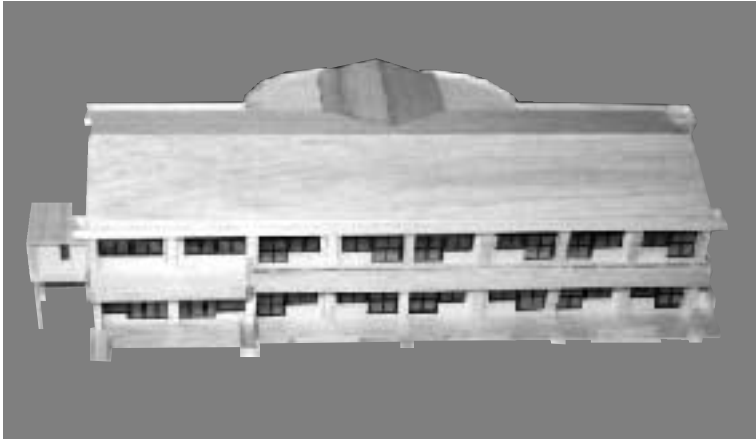
工期は、11月上旬までで、12月から利用できるようになる予定です。

小立小学校校舎増築工事が 始まります！

小立小学校は、児童数が増加傾向にある上、今年度より1年生に30人学級が導入されクラス数の増加が予想されることから、校舎を1棟増築することになりました。

増築する棟は、鉄筋コンクリート2階建てで、渡り廊下部分一部は鉄骨造り延べ床面積は、1044.59㎡、管理特別教室棟の北側の敷地に設置し、各階3教室づつ備え計6教室が新しくできることとなります。

工事の入札は7月15日に行われ、コバヤシ工業と共進建設のJVが落札し、1億7535万円で契約いたしました。工期は来年2月28日までで、来年の4月からは子どもたちの声が聞こえる予定です。



第三源泉の掘削を開始しました。

富士河口湖町では、現在第一源泉(浅川)、第二源泉(船津)によりホテル、旅館、温泉休養施設に温泉を供給していますが、年々使用量が増加し、さらに合併による使用の拡大により、湯量が十分確保できにくい状態となってきました。

そこで、今年度第三の源泉として、町民ふれあいセンター敷地内に掘削することとなり、7月8日開孔式を執り行いました。工事期間は平成17年1月までを予定しています。

この工事を施工するにあたり、ふれあいセンター敷地内の車両の通行止め及び、騒音等でご迷惑をおかけいたしますが、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。なお、徒歩による通行はできますが、十分注意してください。



工事中はご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。